

# 市の魅力の発信を！

齋藤 久代 議員

問 常磐線は、3月14日に東京・品川駅への直通運転が開始される。茨城県の玄関口である取手駅の乗降客などの変化をどう予想しているか。

市長 午前8時台に常磐線快速電車が東京駅に5本乗り入れることで利便性は向上し、住宅地としての期待価値が高まることは間違いない。通勤時間の優位性だけでなく、自然・教育・保育環境を一体とした住むメリットや来て楽しめることを訴えたい。この話を含めた動きについては、既に始めているところである。

問 社会の分断化、家庭・個人の孤立が進んでいる中で、取手に住むことが幸せと感じることを考えると、家の土間でお茶を飲みながらコミュニケーションを図る文化がある。地域・家族のきずなづくりの場として、芸術家の方に最小限のグッズを考えてもらい、土間カフェを開催するなど、コミュニケーションを地域に根付かせる運動を展開してはどうか。

まちづくり振興部長 土間でお茶を飲むことがどのくらい行われているか想像で

きないが、市内にある「お休み処」の、外に出て話をするという目的と同じだと思ふ。土間カフェ開催について、市がどれだけ関われるかはこれからの検討課題だと思ふ。



民家の玄関に設けられ、談笑の場となる土間

## 盛り上げよう！市制45周年

石井 めぐみ 議員

問 平成27年は、市制施行45周年を迎えるほか、藤代町との合併10周年や、10月のウエルネスプラザのオープン予定など祝い事が重なる。市長の目指す市民協働の推進、市民の融和、一体感の醸成を図るためにも、市民が一緒に45周年を迎えるイベント企画など、各種団体を巻き込んで考えてみてはどうか。

市長 45周年は、市の魅力の再発見と多くの市民活動

を統合する、50周年に向けた再スタートの起点とした。各種団体の推薦者等の市民を含めた記念事業企画運営委員会を立ち上げる予定。

問 イベントの期間、予算はどのように検討しているのか。

政策推進部長 職員によるプロジェクトチームからの提案を企画運営委員会で検討し、決定していきたい。予算は500万の予定だが、他に通年のイベント事業にも45周年ということ、例年より多く予算を計上している。期間は4月から1年間と捉えているが、ゴールデンウィーク周辺からイベント等を行うので、1〜3月には準備をした

問 全国各地で、周年事業の記念切手を作成している。市も記念切手、はがき、シールなどを発行してみてもどうか。

秘書課長 現在、切手を記念品として配付する方向で検討している。

## 駐車場は大丈夫？ウエルネスプラザ

川又 貞男 議員

問 ウエルネスプラザが成功するかどうかは、駐車場が一番の問題だと言ってきた。市はリボンビル裏の駐



取手西口駐車場ビル(新町第8ビル)

車場の利用を考えているが、遊技場ができ、多くの車がここに駐車するようになった。ここを当てにする

と困るのでは。都市整備部長 実態調査を行ったが、プラザ利用を賄う台数は空いている。

問 遊技場に来る車は、もっと増えると考えていいのではないか。

答 実態調査と西口周辺の時間貸し駐車場の数を見た中で空き台数を調べた。また市民が公共施設等を利用する場合の交通手段別の割合に基づき、当面は十分としたが、車の需要もある

ので、プラザ敷地や西口事務所跡地に駐車場を整備し、民間駐車場も活用しながら駐車場を賄っていく。

問 市と民間の駐車場では足りない。プラザを造るなら四、五百台の駐車場を用意すべきと言う人がいるが、どう思うか。

市長 西口にしばらくの間、気持ちよく滞留してもらおうゾーンとして憩いの場所をつくることを市が先導して行っている。プラザに隣接する場所に駐車場ビルを造るのは、理想的なまちづくりから少しかけ離れている。(西口にある)銀行からの道を整備したときに駐車場を整備できるなら一つのアイデアとなるが、駐車場は(プラザの)利用率に合わせて、どの程度用意できればいいのを探りながら対応することになる。

## 藤代スポーツセンター体育館

吉田 宏 議員

問 同体育館で茨城県卓球連盟ラージボール部主催の大会が開催されている。卓球台は縦一列に11台が3列に並び合計33台を配置して行われているが、どうしても照明が行き届かなく、暗い状態の中で試合をしなければならぬ場所が生じている。照明設備が充実した中で競技を行ってもらいたいが、これまでに体育館利用者からは施設改善要望はどのようなものがあつたか。

教育部長 音響環境の改善のほかに、大型暖房の設置、洋式トイレの増設とウォシュレット化の要望などがある。



藤代スポーツセンター体育館

問 音響環境、空調環境改善の要望にどのような考えで対応してきたか。

スポーツ生涯学習課長 平成18年度に施設改修計画を検討したが、教育委員会は学校施設の耐震化を重点施策として位置づけ、児童生徒の安全確保を優先してきた。

問 館内の照明設備について、限られた予算でどのような対応が可能か。

答 体育館は築21年を経過し、年間利用者数は昨年度、約3万9千人が利用している。通常は天井部分に設置した照明を点灯し、一般競技利用では支障のない範囲で利用いただいているが、競技種目により、照度不足が生じる場合は、既存の照明の照射角度を調整しながら、不便をかけないように対応したい。